

トランプで『切り化けトリテ』と『化け化けトリテ』

Trick Taking Game : Trump & Suit Wildcard, Double Suit Wildcard

人数: 3~5人
時間: 10~30分
年齢: 10才以上

ゲーム制作者: フェスカ・つじむら
ルール発行者: 按理具庵
発行日: 2026年10月18日

暫定版: 2026.08.25 Rev. 0.50

概要

切り化けトリテ(2023秋)は三元二相札(TriElio)や四元二相札(TetrElio)など特殊な追加スーツが2種あるカードデッキ用のトリックテイキングゲーム(以下トリテ)です。過去作のコートタロットやコートカラーポーカーのように絵札(コートカード)を追加スーツとみなすことで標準トランプでも遊べるようにしました。

トリテの基本ルールは、切り札あり、マストフォロー、獲得トリック数勝負の個人戦です。

絵札を黒と赤に分けて2つの追加スーツとし、黒6枚・赤6枚にランク1~6に割り付けます。なお平札のAはランク1扱いです。

切り化けトリテでは、黒(♠, ♡)を切り札(Trump)として扱い、赤(♥, ♦)を化け札(Suit Wildcard)として扱います。

化け化けトリテでは、黒絵札を黒スーツ(♠, ♡)の平札に化ける札、赤絵札を赤スーツ(♥, ♦)の平札に化ける札として扱います。なお切り札は標準トランプのトリテと同じように4スーツ(♠, ♥, ♣, ♦)の中から1つを選んで決めることにします。

切り札は最も強いスーツですがマストフォローの規則に従うため、いつでも出せるわけではありません。

化け札は常にリードスーツに化ける決まりなのでリードスーツと同等の強さがあっていつでも出せます。リードスーツが切り札なら切り札にも化けられます。弱点は本物とかち合うと化け状態が解除されてスーツ無しの無効札となって負けてしまうことです。

カード構成

	1	2	3	4	5	6	7		未使用
スペード	A	2	3	4	5	6	7	8	9
ハート	A	2	3	4	5	6	7	8	9
クラブ	A	2	3	4	5	6	7	8	9
ダイヤ	A	2	3	4	5	6	7	8	9

黒絵札 (追加スーツ黒)	1	2	3	4	5	6	切り札★	黒化け札*
	J	J	Q	Q	K	K		
赤絵札 (追加スーツ赤)	1	2	3	4	5	6	化け札*	赤化け札*
	J	J	Q	Q	K	K		

7 × 4 + 6 × 2 = 40 枚

切り化けトリテ 化け化けトリテ

A(エース)札は最弱のランク1として扱う。

絵札各6枚の追加の黒・赤スーツはランク1~6とみなす。

絵札のランク数に合わせてランク8~10の12枚は未使用とする。ランク7を残したのはご愛嬌で、化けられないランクが1つぐらいあると変化が楽しめる。3~5人用の最適な枚数にするため。

配り枚数

標準トランプ54からジョーカー2枚と各スーツのランク8, 9, 10を抜いた40枚を使用します。

3人制では余った1枚は未使用とします。

人数	枚数	余り
3人	13枚	1枚
4人	10枚	0枚
5人	8枚	0枚

切り札

切り化けトリテでは、黒絵札6枚を**固定の切り札**とします。切り札はリードスーツの平札よりも強くトリックに勝ちます。複数の切り札が出ていればランクの最も高い(大きな数)が勝ちとなります。

(♠ ♡ ♣ ♤ ♥ ♦) 黒絵札 6枚

II
1 2 3 4 5 6
★ ★ ★ ★ ★ ★ 切り札スーツ(★)の
ランク1~6

切り札は固定の黒絵スーツ(第5のノート)ですからマストフォローの原則に従います。手札にリードスーツと同じノートがあれば、その札を優先して出さなければならず、切り札はいつでも出せるわけではありません。また切り札がリードされたら、手札に切り札があれば温存することは許されず必ず出す必要があります。

切り札のリード出し制限

序盤の切り札狩り防止を趣旨とする独自ルールです。

手札に標準4ノートが揃っている切り札のリード出しはできません。言い方を替えれば、標準4ノートの何れかが「枯れた」後に、切り札ノートでのリードが可能となります。(※枯→涸)

リードプレイヤーの
初期手札

7 4 6 A 7 3 J J K Q
♦ ♣ ♤ ♥ ♦ ♧ ♨ ♩ ♪ ♫
(♦, ♣, ♥, ♠)=(1,2,2,1)枚 (★, *)=(3,1)枚

配られた手札で固定切り札6枚中の3枚を所持して最強ランクの6もある。この切り札6(♠K=★6)をリードすれば、他プレイヤーの切り札を出させる(切り札狩り)ことができるし、最強の6なので負けるはずもない。もし化け札が出ても同じ最強切り札には化けられないので必勝だ。でも4つのノートが各1枚以上あるので、切り札のリード出し制限ルールにより初手で出すことができない。

どれか1つでもノート枯れしていれば♠K(=★6)が出せるようになるので、1枚しかないノートの♦7か♣3を選択肢とする。♦7は♦で最強ランクで化け札(ランク1~6)には絶対に負けない。各10枚配りで♦が1枚も無い確率は低いので、他プレイヤーが初手から切り札を出してくることはないだろうと♦7をリードする。

目論見どおり最初のトリックを獲得してリード権を維持できた。2手目は予定どおり♠K(=★6)をリードする。残りの切り札3枚を全部狩れると思ったが、切り札1枚と化け札2枚だった。切り札がリードノートなら化け札が切り札に化けられることを忘れていた。でもトリックは取って引き続きリード権を得ることができた。

次はどれをリードしようか悩むところで、♣3を捌いておけば2ノート(♦, ♠)枯れとなるのでフォローで切り札が出し易くなるはずと考えて、♣3をリードした。トリック獲得できなかったが想定内だ。

他プレイヤーが♠7をリードしてきた。これで切り札を出して勝てると思ったけど、手札にまだ化け札が1枚残っていた。化け札は強制的にリードノートとみなされるので♠フォローで♥Q(=★4)を出した。

化け化けトリテにおいては、ゲーム開始前に適当な方法で標準4ノートの中から1ノートを切り札ノートとして選びます。

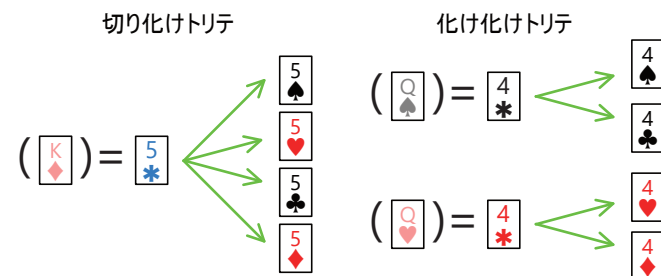
マストフォローの原則に従うだけで、切り化けトリテにおける切り札のリード出し制限はありません。

トリック勝負判定で切り札ノートはリードノートより強いとします。

化け札

切り化けトリテと化け化けトリテで化け札の扱いは共通です。

ただし切り化けトリテでは任意のノートに化けられるのに対し、化け化けトリテでは化けられるノートに色の制限があり、黒化け札は黒ノートにのみ、赤化け札は赤ノートにのみ化けられます。



化け札は「きつい」(←自由にノートを決められない)化け札として扱います。手札にある化け札は常にリードノートと同じノートとみなしてマストフォローに従います。リードノートと同じノートの本物札と化け札の両方があった場合はどちらを出しても構いません。手札にリードノート札が無くて、化け札があった場合は必ず化け札を出さなければなりません。ただし化け化けトリテの色制限によりリードノートに化けられなければ、その限りではありません。

場に出された化け札は「かたい」(←リードノートに固定化され変化しない)扱いとします。ただし場に化け対象としている本物札が出されてかち合うと、化け状態が強制解除されノート無しの無効札となります。

[例] ♥Qは化け札のランク4(=★4)です。リードノートがスペード♠で、この化け札を♥Q→♠4として場に出し、後手番の人が本物の♠4を出してきたら、出している化け札は□4(ノート無しの4)になり、リードノートと異なるためトリック勝負に加われず負け確定となります。

逆にリード札が♠4であって、手札にスペード♠札が無くて1枚の化け札♥Q(=★4)があったら、かち合い負け確定であると分かっているマストフォロー規則に従ってその化け札を出さなければなりません。